

細入図書館が移転して リニューアルオープンします

2010年1月5日



富山市立細入図書館

面積：約 501 m²

住所：〒939-2184 富山市榆原 405

電話番号：076-485-9050

開館時間：月～金曜日 9:30～17:30

土・日・休日 9:30～17:00

蔵書冊数：約 14,500 冊

1) 約 7,200 冊 (一般図書)

2) 約 7,300 冊 (学校図書館分を含む児童書)

図書館の特徴

細入地区のほぼ中心にあたる榆原中学校が大規模改造され、同じ場所に神通碧小学校も移転改築しました。

細入図書館は、この小中学校図書館を地域に開放した形の図書館として、2010年1月5日よりリニューアルオープンします。学校図書館・公共図書館の両機能を備えることで、地域住民・児童生徒の皆さんが利用できるようになっています。

41号線から左に曲がった突き当たりが図書館部分です。広い駐車場には降雪時に備え、9台分の屋根付きの駐車場もあります。

図書館専用の玄関を入ると、広いラウンジになっており、カウンターがあります。

公共図書館部分は、くつろいで絵本を見ることができる畳コーナーに続き、一般用図書が配置されています。また、インターネット端末を活用して、蔵書検索や情報検索をすることもできます。

学校図書館部分には、学校から子ども達が自由に入れる専用口を設けてあり、必要な時に学校側から利用することができます。

本と人との出会いや橋渡しを大切に、赤ちゃんから高齢者の方まで、皆さんに愛される図書館となるよう、サービスを提供していきます。(本館 若崎)



先進図書館をめざして《全国図書館大会》

平成 21 年度全国図書館大会が、10 月 30 日に東京で開催されました。この大会は日本図書館協会が主催する行事で、日本全国の図書館職員や関係者が一堂に集まり、研究討議を通して図書館をとりまく現状や課題を共に考え、経営の方向を探るものです。明治 39 年に第 1 回大会が開かれて以来、今年で 95 回目になる伝統ある大会です。

大会テーマを「図書館は力・人・本・情報・まちづくり」とし、記念講演では人と本と情報が集まり活気あるまちづくりを実践している「本の街・神保町を元気にする会」事務局長の柴田信氏が、神保町活性化のためのアイデアあふれる取り組みやその心意気を語られました。大会期間中には、神保町でブックフェスティバルや神田古本まつりが催され、その活気あふれる様子を目にし、本や情報がまちづくりに及ぼす大きな力を実感しました。

2008 年 6 月の図書館法の改正により、「運営の状況に関する評価等」が加わり、公共図書館だけでなく、大学図書館や学校図書館でも自己評価が求められています。しかし実際には評価基準や評価方法など定まったものがないため、まだまだ未着手の図書

館が多いのが現状です。図書館界が抱える課題「図書館評価をどう活用するか？誰のための何のための図書館評価か」を研究討議する分科会では、大学図書館、学校図書館、公共図書館のそれぞれの立場から取り組みと課題について事例発表が行われました。

公共図書館については、各図書館が自己評価を行う際の参考となる評価の指標や視点等を示すために、日本図書館協会がプロジェクトチームを設置し検討を行っており、第三者評価項目について中間報告が行われました。評価項目は三つに分けられ、「利用者へのサービス」「サービスの基盤的業務」「経営計画」という区分ごとの項目をさらに細分化させ評価する形となっています。しかし、対象図書館の規模や地域性によっては、必ずしも全ての館で共通する評価項目とはいえないものも含むため、区分を設け評価の必要性を示してあります。

提示された内容について実務にあたっている図書館職員から質疑や意見が多く出されたことを受け、今後さらに検討を重ねることでした。各館の自己評価指標設定の参考となる事業であるため、その完成に期待がよせられています。（本館 田中）

平成21年度中日ボランティア賞受賞おめでとうございます

「八尾おはなしの会」が、富山・石川・福井県でボランティア活動を続けている個人、団体を顕彰する「中日ボランティア賞」の団体賞を受賞しました。平成 9 年 12 月から八尾図書館ほんの森を拠点に、図書館の行事にボランティアとして参加する他、八尾地区の小学校・幼稚園・保育所を定例訪問し、読み聞かせやストーリーテリングなどを行っています。また、毎月の定例会

では、メンバーの研修活動も続けられています。「子どもたちの心に温もりを届ける活動」「子どもと本の世界のかけ橋を作る」をモットーに、これからも図書館と連携しながら活動を続けていきたいと語っておられました。

（ほんの森 富川）



いちおしライブラリー「庭の本」



冬の庭はどこかひっそりと、殺風景です。常緑種をのぞいてほとんどの植物が葉を落とし、雪に埋もれ、枯れたようにみえるからでしょうか。そんな庭を眺めながら、満開になった花や青々と繁った植物を想像し、じっと春を待つかたも多いと思います。庭で過ごす時間は、身近で簡単ながらも、人生を豊かなものにしてくれます。今回は、数ある「庭」の本の中から、眺めるだけでなく、読み物としても楽しめる本を3冊紹介します。



『庭の時間』

辰巳芳子/著

(文化出版局 2009)

1月から12月まで、月ごとに庭の様子やその庭で採れるものを使ったレシピが紹介されています。加えて、季節に合わせた暮らしの楽しみ方も紹介されています。例えば12月は、「香りあらば」と題して、「歳暮香」を聞く習わしと共に、柚子を花から実まで使い切る方法が紹介されています。

どの季節でもおいしいものが採れ、美しい眺めが楽しめるような庭とは一体どんな庭なのか。実は身近なところに答えがあることを、この本によって知りました。身の回りの小さな場所を見つめ、変わりゆく姿にきづくことで、毎日の暮らしは豊かになるようです。

付記には、「辰巳家の庭の研究論文より」(原案・池村奈美)として、庭の見取り図や邸内植物の紹介のほか、その植物を生かした料理利用例や薬用植物の使い方・薬効も紹介されています。

『武市の夢の庭』

さとうち藍/文

関戸勇/写真

(小学館 2007)

当時中学生だった武市少年は、太陽が育て殖やしてくれる庭という意味を込め、花園を『陽殖園』と名づけました。以来半世紀、北海道の7.5ヘクタールという広大な土地には、約800種類の花が四季折々に咲き乱れます。本書は、少年時代から青年期を経て、今なお一人で庭を作り続けている男性の物語です。写真では、武市氏が作業する様子や、苗から育てた植物が繁っている様子、ゼロからつくった道などが紹介されています。巻末には『陽殖園』案内として花の見どころなども出ています。

『小説家の庭』

丸山健二/作庭・写真・文

(朝日新聞社 2006)

丸山氏は、創作活動と同等に作庭に力を入れています。本書では、自身の庭の写真に哲学的な文章を寄せています。

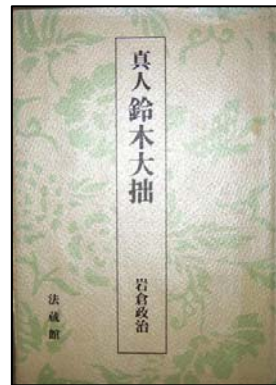
庭で、ただ草をむしったり、土いじりをしていると、時折、宇宙の理のようなものがふっと心にわきあがってることがありませんか。この本を読んでいると、そんなひとときを思い出します。

庭全体と植物一つひとつを接写した写真とが全ページにわたって掲載しており、丸山氏がそれらをととても慈しんでいる様子が伝わってきます。(本館 山田)

岩倉政治文庫の資料 其の九

大谷大学での学生時代、岩倉は彼の人生に多大な影響を与えることになる恩師に出会いました。その人物、鈴木大拙（1870～1966）は、仏教文化を西洋にまで広く知らしめた、近代日本仏教界屈指の学者です。

岩倉と大拙の交流は、当時学生であった岩倉が大拙の息子の家庭教師を務めたことに始まり、岩倉が作家として成功した後も途絶えることなく、大拙が昭和41年に亡くなるまで続きました。後年、岩倉がまとめた『真人鈴木大拙』（法蔵館 1986）は、人物論だけでなく、大拙の助手との対談や、岩倉宛に寄せられた大拙の書簡などを収め、その人物像を多角的にとらえた、ユニークな伝記です。



大拙は、96歳という高齢で亡くなりましたが、晩年になっても若々しい探究心や意欲を失わず、岩倉は「ほとんど信じがたい活動力」と評しています。岩倉自身もまた、平成12年に97歳で亡くなる直

前まで、旺盛な執筆活動を続けました。師の意欲的な姿勢を受け継いだような活動ぶりからは、岩倉が生涯にわたって、大拙に対し深い敬愛の念を抱き続けていたことがうかがえます。

（本館 舟山）

レファレンスあれこれ

今回は大沢野に関する質問をご紹介します

Q. 大沢野船峠地区にある姉倉姫神社の由緒や、姉倉姫の伝説を知りたい。

A. 『富山県の地名』（日本歴史地名大系 16 平凡社 1994）は地名事典ですが、歴史的建造物や遺構も項目に含め、参照文献を豊富に挙げているのが特徴です。【姉倉姫神社】の項目を引くと、「創建は嵯峨天皇の勸請、宮数五社など…」とあり、数点の文献が紹介されています。

その中の一つ『肯構泉達録』は、富山の歴史・伝説・地誌を記し、文化12年(1815)ごろ成立した書物で、「姉倉姫が能登の石動彦と争って大乱となったため、罰せられ、呉羽の小竹野で機織をして罪を償った」という伝説を巻頭に収めています。

Q. 笹津―南富山間を結んでいた私鉄笹津線が廃線になった経緯を知りたい。

A. 『富山大百科事典』（北日本新聞社 1994）の【笹津線廃線反対運動】の項目に大まかな経緯が記されていました。笹津線の運行会社富山地方鉄道が、1971年赤字経営を理由に廃線案を提示、沿線の住民・議会などが反対運動を起こしたものの、1975年やむなく廃線になったということです。詳しい事情は『大沢野町史』（2005）が【現代編・社会】の章に記しています。

また『富山廃線紀行』（草卓人・2005）に、1914年富山軽便鉄道として営業開始以来、笹津線がたどった60年余の歴史がわかりやすくまとめられています。

（大沢野 山崎）

